

経営と健康

日本と台湾の架け橋「李登輝物語」

第四回

講談師 一龍斎貞花



日本は自由な発言が出来、逸脱する意見が発せられることがあります。ロシア・中国は言論統制が厳しく、政府のお気に召さないツイッターは削除されていると、連日のようにニュースで伝えられている。しかし日本は民主国家とはいえ、首相を国民が選ぶことは出来ません。台湾は総統を国民が選挙で選ぶことが出来るんです。

国民党の大会で総統に選ばれるや、李登輝は、「理想とする民主国家を築き上げよう」と、政府関係者だけでなく野党である民進党の政治家、商工界代表、学識経験者、民間からも幅広く150人を集め、台湾史上初の国是会議を開催し、

一、総統は、台湾の住民による直接選挙で選出する

二、国民党政権が、中国大陸で制定したままの憲法を改正する

三、対中国大陸政策は、台湾の安全に配慮して決める
など五項目を決定。

独裁政治から、民意に基づく政治を行うこと。

台湾統一に圧力をかける中国にどう立ち向うか、反対派を納得させるため、就任演説では、

「客観的な条件さえ熟せば、中国との統一を協議する用意がある」と、発言したものの本当の気持ちは、

「中国共産党政権が、民主主義になるはずがない」と確信。

現在の中国は、民主化どころか一層独

裁政治を進めています。

台湾独立運動で、内乱罪で獄中にあつた20人を釈放。

海外にいた独立運動家も無罪となり台湾に帰国。

憲兵に連行された経験のある李は、特務機関の警備総司令部を廃止。

中国は、祖国分裂主義者と批判し、

李の再選を阻止しようと台湾沖でミサイルを発射するなどの威嚇を繰り返したが、台湾人の多くがこれに反発。ロシアもそうですが力を見せればいいというのが反発されるんです。

「台湾人がゆっくり寝られる社会にしたい」と、

民主主義を推し進める李登輝を国

民が支持。

1996年、国民による初の総選挙で圧勝。

3期目の総統に選ばれ、真の民主政治へのスタートとなりました。

台湾が世界でも有数の直接民主主義のモデル国家となりました。

この94年当時は、年間輸出額で台湾は中国を上回っていました。

国民党の企業は、中国への進出に力を入れ中国に巨額の投資をしていた。

「このまま続ければ技術は流出し、中国に取られてしまう恐れがある」と、台湾企業に中国への投資抑制を要請。

中国は、日本の土地、水の元を買っているのに日本政府の対応はどうなんでしょう。報道も減っています。今の円安や投資目的でなく10数年前から取得を目的としたもので、水源を抑えられ水

道代を要求されたらそれこそ大変、水道代がどれだけアップするかわかりません。

95年、アメリカ・コーネル大学の招きで私人として講演。

中国の江沢民国家主席は、李を台湾独立主義者と敵視し、弾道ミサイル6発を発射。

これに対しアメリカは、空母ニミッツを台湾海峡に派遣。

台湾国民は、中国の恫喝に反発し李を支援。

97年、イギリスが香港を中国に返還。登輝は、一国二制度の欺瞞をかき分け二国論を発表。

香港の現状を見れば、李の考えは正解でした。

香港に数度旅行に行きましたが、今は香港旅行したいと全く思いません。そういう方少なくともいます。

香港名物だった海上レストランは、経営不振で廃業。名物とはいえ食事は余り美味しくなかったです。

「国連から追放され、国際社会で孤立している対外関係を打開しなければいけない」

台湾の安全保障のため日米に対する政治工作。

アメリカ政界有力者や、当時の父ブッシュ大統領とゴルフを楽しんだり、これは安倍元総理と同じですね。

日本の椎名素夫衆議院議員（中華民国紫色大綬景星という台湾から勲章を贈られている親台湾派の代表であるとともに、アーミテージ元国務副長官はじめアメリカの政界に知人が多い知米派・国際派で、中曽根康弘首相とロナルド・レーガン大統領の「ロン・ヤス会談」成功に貢献）ら政財界の他、外務省の官僚と数か月に一度、日本・台湾・アメリカが会議を行うなど、しかしこうした活動をするも国連加盟の動きはありません。

韓国と北朝鮮が同時に国連に加盟している。されば中国と台湾が加盟を認められてもいいじゃないかと活動するも近年は、後進国に積極的に資金援助を行う中国の強硬姿勢に、外交関係が少なくなる有様です。

日本が、台湾と断交したのちメディアは次々と台北を去り、拠点を北京に移し台北に残っていた産経新聞は、逆に北

京から特派員の国外退去させられていたが、98年ようやく中国総局開設にこぎつけ、これによつて日本のメディアは中国一辺倒から、台北に支局を復活させ台湾の報道がなされるようになっていきました。

翌99年、台湾新幹線を、「日本の新幹線に変えなさい」と、李の説得により欧州勢を逆転。これはただ日本を愛していたからではなく、地震の多い台湾の実情から、日本の地震対策技術の良さをご存じなればこそその推薦でした。

日本の新幹線は、この前の地震で残念ながら初めて脱線しましたが、台湾新幹線は快適に運行されています。私の八田與一の鳥山頭ダムツアーの時、高齢者割引の恩恵を受けまして、この割り分が食事の時の飲み代補助になりました。

2000年、74歳の李は総統選挙に出馬せず後任に推した連戦が、民進党陳水扁に惨敗。その責任を取って国民党主席を辞任。

総選挙による政権交代、これも民主化を推し進められたばこそその結果です。

2001年、平成13年4月、李は夫人とともに関西空港に降り立った。倉敷の病院で、心臓病治療のためでしたが、当初日本は、「李の訪日は政治目的だ」と、抗議した中国政府への配慮からビザ発給をしづつていた。

「日本政府の肝っ玉はネズミより小さい。人道的理由でも日本へ行けないのはおかしい。」

日本と台湾の窓口である交流協会台北事務所がビザを申請。さまざま混乱がありました。時の森喜朗首相がビザ発給を指示し来日することが出来、治療を受けることが出来ました。

中国の反発や国内親中派の抵抗を受けても日本政府がビザを発給したのは、産経・読売・日経・朝日・毎日・東京の六大新聞が揃って訪日を支持したことも大きかったです。珍しいですね産経と朝日・毎日・東京新聞が同じ意見。

総統退任後も活躍する最終回は、次回に申し上げます。